

作 業 療 法 学 科

Occupational Therapy

● 基 礎 分 野

● 専 門 基 礎 分 野

● 専 門 分 野

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
植村健一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	見学実習 作業療法評価学Ⅱ 人間関係とチーム医療論 基礎作業学 人間関係論 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
池田真一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 機能解剖学 機能解剖学演習 高次脳機能作業療法学 作業療法評価学Ⅱ 見学実習 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
伊集院由紀	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	作業療法概論Ⅰ 作業療法概論Ⅱ 見学実習 末梢神経作業療法学 社会生活行為学 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習 発達作業療法学
園屋和之	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	精神医学 基礎作業学Ⅰ 見学実習 作業療法管理学 基礎作業学Ⅱ 精神機能作業療法学 地域実習 臨床評価学 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
橋口信洋	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	見学実習 義肢装具学 末梢神経作業療法学 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習

作業療法学科（1年生）カリキュラム

専門課程(医療分野)

作 業 療 法 学 科								
区 分		科 目	規定 単位	計 画	1学年	2学年	3学年	実務
				単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	
基 礎 分 野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教 育 学	14	2 (30)	2 (30)			
		物 理 学		2 (30)	2 (30)			
		医療倫理学		1 (15)	1 (15)			
		医療統計学		2 (30)	2 (30)			
		医学英語		2 (30)	2 (30)			
		人間発達学		2 (30)	2 (30)			
		人間関係とチーム医療論		4 (60)	2 (30)	2 (30)		○
		学びの技法Ⅰ		1 (30)		1 (30)		○
	学びの技法Ⅱ	1 (30)		1 (30)		○		
小 計		14	17 (285)	13 (195)	4 (90)			
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学Ⅰ	12	2 (30)	2 (30)			
		解 剖 学Ⅱ		2 (30)	2 (30)			
		運 動 学Ⅰ		2 (30)	2 (30)			○
		運 動 学Ⅱ		2 (30)	2 (30)			○
		機能解剖学		2 (60)	2 (60)			○
		機能解剖学演習		2 (60)	2 (60)			○
		生 理 学Ⅰ		2 (60)	2 (60)			
		生 理 学Ⅱ		2 (60)	2 (60)			
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床心理学	14	2 (30)	2 (30)			
		病理学概論		2 (30)	2 (30)			
		内 科 学Ⅰ		2 (30)	2 (30)			
		内 科 学Ⅱ		2 (30)	2 (30)			
		整形外科Ⅰ		2 (30)		2 (30)		
		整形外科Ⅱ		2 (30)		2 (30)		
		神経内科学Ⅰ		2 (30)	2 (30)			
		神経内科学Ⅱ		2 (30)		2 (30)		
		精神医学		4 (60)	4 (60)			○
		薬 理 学		2 (30)		2 (30)		
	救急医学	1 (15)		1 (15)				
	保健医療福祉とリハ ビリテーションの理念	地域保健福祉学	4	2 (30)		2 (30)		○
		医学概論		2 (30)	2 (30)			○
小 計		30	43 (765)	32 (600)	11 (165)			
専 門 分 野	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅰ	5	1 (30)	1 (30)			○
		基礎作業学Ⅱ		2 (60)	2 (60)			○
		作業療法概論Ⅰ		1 (30)	1 (30)			○
		作業療法概論Ⅱ		1 (30)	1 (30)			○
		リハビリテーション基礎医療学Ⅰ		5 (150)			5 (150)	○
		リハビリテーション基礎医療学Ⅱ		5 (150)			5 (150)	○
	作業療法管理学	作業療法管理学	2	2 (30)		2 (30)		○
	作業療法評価学	身体機能評価学Ⅰ	5	2 (60)		2 (60)		○
		身体機能評価学Ⅱ		2 (60)		2 (60)		○
		精神・心理機能評価学		1 (30)		1 (30)		○
		生活行為評価学		1 (30)		1 (30)		○
		臨床評価学		3 (60)		3 (60)		○
		臨床評価学演習		3 (60)		3 (60)		○
		画像評価学		1 (30)		1 (30)		○
	作業療法治療学	発達障害作業療法学	19	4 (60)		4 (60)		○
		身体障害作業療法学Ⅰ		2 (30)		2 (30)		○
		身体障害作業療法学Ⅱ		2 (30)		2 (30)		○
		精神障害作業療法学		4 (60)		4 (60)		○
		高齢期障害作業療法学		4 (60)		4 (60)		○
		高次脳機能作業療法学		2 (30)		2 (30)		○
		義肢装具学		2 (30)		2 (30)		○
		リハビリテーション栄養学		1 (15)		1 (15)		○
		生活行為向上マネジメント学		1 (15)		1 (15)		○
		地域作業療法学		社会生活行為学	4	2 (30)		2 (30)
	地域作業療法学		2 (30)			2 (30)		○
	臨 床 実 習	見学実習	22	1 (45)	1 (45)			○
		評価実習		3 (135)		3 (135)		○
		長期実習		18 (810)			18 (810)	○
		地域実習		1 (45)			1 (45)	○
	小 計		57	79 (2235)	6 (195)	44 (885)	29 (1155)	
合 計		101	139 (3285)	51 (990)	59 (1140)	29 (1155)		

【授業概要】 「教育学」と一口にいっても、その範囲は広くまた射程も深い。たとえば教育社会学、教育史、教育心理学等々いずれも教育学の範疇に入る領域であり、一科目の枠内でこれら教育諸科学を網羅的に検討することには無理がある。そこで本講義では、教育学が包含する分野のひとつである「学校教育学(公教育学)」に視点を据え、その歴史、内実さらには現代社会における学校教育の課題について講じ、学校教育の意義・意味をあらためて問いなおしてゆく。

【到達目標】 ① 学校教育(公教育)と国民国家の関係性を把握できている。
② わが国学校教育の歴史的変遷を総体的に理解している。
③ 今日の学校教育が直面する諸課題解決のための方策を自分なりに提起することができる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	公教育(近代学校教育)の成立、教育学について	池田
2	教育学と文明論 ～伝統文化教育論～	池田
3	我が国の公教育創出 ～近代国家形成の助走～	池田
4	承 前(Ⅱ)	池田
5	日本国憲法と教育基本法 ～我が国公教育の再構築～	池田
6	承 前(Ⅱ)	池田
7	戦後教育体制の見直し ～教育基本法の改正～	池田
8	承 前(Ⅱ)	池田
9	現代公教育の根本規範 ～改正教育基本法の成立～	池田
10	振り返り、確認	池田
11	江戸時代の教育(Ⅰ)	池田
12	課題小論文、江戸時代の教育(Ⅱ)	池田
13	学校教育制度の基本 ～学校教育法～	池田
14	教育政策の決定過程	池田
15	教育論の多様性	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 授業前学習 シラバスを踏まえ、関係資料を収集するよう努め、それらをよく読みこんでおくこと(約1時間)。
授業後学習 配布されたプリントの内容および論点を確認整理すること(約1時間)。

【教科書名】 テキスト・参考文献 授業中、適宜紹介する

【参考図書】

【評価基準】 評価 評価テスト90% 授業への姿勢等10%

科目名：物理学(後期)

授業形態：講義

担当教員：古川 靖

2単位

【授業概要】

物理学全体の基礎的な内容を学び、論理的な考え方を習得する。作業療法では、力と運動、電磁波、波、熱、放射線などの物理的性質を利用している。これらの性質がしたがう物理法則を理解し、使い方を習得することによって現象を原理的に理解し、活用する力を養う。

【到達目標】

物理学の基本的な用語と物理法則の意味を理解する。
物理法則の使い方を習得し、論理的な考え方を養う。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	基本単位と組立単位、指数の計算、有効数字	古川
2	数式とグラフ、三角関数、ベクトルの計算	古川
3	速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動	古川
4	力と単位、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力	古川
5	力の合成とつり合い、慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則	古川
6	剛体の回転運動、力のモーメントのつり合い、重心	古川
7	運動量と力積、仕事と仕事率、力学的エネルギー保存の法則	古川
8	温度、熱膨張、比熱と熱容量、物質の三態、熱の伝わり方	古川
9	波の特徴、横波と縦波、干渉、反射、屈折、回折	古川
10	音、音速、音の高さや大きさ、ドップラー効果、光、光の強さ	古川
11	静電気力、電場、導体・不導体・半導体、電位、コンデンサー	古川
12	電流、抵抗、電気回路、合成抵抗、アース、電力と電力量、直流と交流	古川
13	磁気力、磁場、ローレンツ力、モーターの仕組み、電磁誘導、電磁波	古川
14	原子の構造と種類、放射線、半減期、放射能の単位、原子力エネルギー	古川
15	まとめと演習	古川
16	定期試験	古川

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「PT・OT ゼロからの物理学」(羊土社)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験70% 授業態度30%

【授業概要】 生命・医療倫理の基礎的知識を学習した上で、医療の進歩とともに生じてきた倫理的問題を検討する。

【到達目標】 将来、チーム医療の一員として倫理的問題に直面した際、その時点での「患者にとってより「良い医療」とは何かを自ら考え、より良い解決方法を探求しないといけない。
そのためには、この講義で、生命・医療倫理の基礎的知識を身につけ、倫理的問題の検討を通じて、その諸問題にまつわる多様な視点・論点を学び、自らの考えを言葉にしていけるよう、考察をして欲しい。そこには、医療を学ぶ者としての立場からだけではなく、常に、自分が患者や患者家族の立場だったら?という視点併せ持って考察できる感性を身につけて欲しい。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	生命倫理学・医療倫理学とは？	西
2	インフォームド・コンセント	西
3	生殖に関わる倫理	西
4	脳死と臓器移植	西
5	安楽死と尊厳死	西
6	終末期医療に関わる倫理	西
7	ケーススタディ	西
8	まとめ	西
9	定期試験	西

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「はじめて出会う生命倫理」(有斐閣アルマ)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 医科学領域において、とくに有益であると思われる統計学の基礎的な概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】 数学の理解には練習問題を解くことが大切である。教科書にそった具体的な問題も多く解いて学習する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	尺度の度数分布表の作り方	竹下
2	度数分布図の作成	竹下
3	代表値(1) 算術平均・幾何平均・調和平均	竹下
4	代表値(2) 中央値・最頻値	竹下
5	散布度(1) 標準偏差	竹下
6	散布度(2) 四分位偏差	竹下
7	相関と回帰(1) 相関係数	竹下
8	相関と回帰(2) 回帰直線	竹下
9	確率・順列・組み合わせ	竹下
10	確率分布(1) 正規分布	竹下
11	確率分布(2) カイニ乗分布・二項分布 他	竹下
12	母集団推定値の推定(1) 母平均の推定	竹下
13	母集団推定値の推定(2) 母平均の区間推定	竹下
14	仮説検定	竹下
15	まとめ	竹下
16	定期試験	竹下

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「やさしい保健統計学」(南江堂)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験80% レポート10% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【授業概要】 解剖学的に身体全般（骨格、皮膚、筋肉、心臓、消化器系、神経系）を英語で学習する。

【到達目標】 専門用語（医学英語）を覚え、理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	初回オリエンテーション、Body partsの英単語	夏目
2	Body partsの復習 Organの英単語	夏目
3	OrganとThe skeletal system	夏目
4	医療英単語 ～英会話 導入編～	秋廣
5	医療英単語 ～英会話 Speak編～	秋廣
6	医療英単語 ～英会話 Listening編～	秋廣
7	Nervous Systemと前回の復習	夏目
8	前回までの復習とVital sine	夏目
9	前回までの復習とリハビリテーションの英単語	夏目
10	精神疾患 (Mental disorder) の英単語	夏目
11	医療英会話Listening編Ⅱ	秋廣
12	医療英会話Listening編Ⅲ	秋廣
13	医療英会話EC総復習 試験対策	秋廣
14	医療英会話略語 総復習	夏目
15	医療英語 実践英会話 総まとめ	秋廣

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと（約1時間）。

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと（約1時間）

【教科書名】 「Vital Signs 〈Revised Edition〉」（南雲堂）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 ヒトの発達について、発達段階に従ってそれぞれの特徴について概説していく。とくに変化のおおきい発達の初期から青年期までを取り上げる予定である。

【到達目標】 発達初期から青年期までの人間発達の各時期の特徴について説明することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	ヒトの発達の特徴	木下
2	発達の様相／胎生期について	木下
3	新生児期の特徴	木下
4	アタッチメント①:親子関係の基盤	木下
5	アタッチメント②:愛着行動の発達と個人差	木下
6	乳児期における認知発達	木下
7	言語発達(おもに乳児期)	木下
8	幼児期における運動・認知の発達	木下
9	幼児期における社会性の発達	木下
10	児童期の特徴	木下
11	青年期の特徴:身体発達と社会的見方	木下
12	青年期の心理的発達:アイデンティティの問題	木下
13	発達障害と特別支援教育	木下
14	発達の要因:遺伝と環境／発達データの見方	木下
15	総まとめ	木下
16	定期試験	木下

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生涯人間発達学」(三輪書店)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

- 【授業概要】 作業療法介入に必要な資質としての専門的なコミュニケーションの在り方を知り、チーム医療に必要な知識と技術に触れ、実際に多職種を交えての課題解決を通してチーム医療やコミュニケーションの在り方を知る
- 【到達目標】 コミュニケーションに必要な技術を経験し、作業量遂行場面にて専門的なコミュニケーションが必要であることを理解する
コミュニケーション技法を駆使しながら、短い会話を再現することができる
作業療法を他職種に伝えるために作業療法について集団でまとめることができる

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	授業の流れについての説明、なぜコミュニケーションが重要か、多職種連携が重要か、メラビニアン法則について(表情の違いによる話し手の感じ方) 演習	植村
2	コミュニケーションの本質(相互作用、受容、共感)「価値観を共有する」体験 演習「価値交流学習」	植村
3	コミュニケーションの本質(相互作用、受容、共感)「聴く」体験 繰り返しトレーニング「聴く」体験 要約トレーニング	植村
4	コミュニケーションに必要とされる力(意思決定) 自律尊厳の原則、対象者の意思決定に必要な条件、タスキギー事件について考える(演習)	植村
5	コミュニケーションに必要とされる力(共感力) 共感トレーニング 話す、伝える技術 質問トレーニング	植村
6	リーダーシップとメンバーシップ リーダーとメンバーの役割、ホーソン工場の実験について(リーダーのタイプによる成果について)(演習)あなたが必要としたのは?(メンバーの状況に応じたリーダーの援助)	植村
7	チームの種類と適応(どのような場面でのどのようなチームが適しているか) リハビリテーションに求められるチームとは 演習(協力ゲーム)	植村
8	自分を知る 相手を知る 他者の特徴について「コミュニケーションスタイルインベントリー」のタイプについての説明 多職種連携のためのグループ編成 役割分担、リーダーとメンバーの決定 チーム目標の設定	植村
9	多職種連携授業への参加のための準備 「作業療法について」プレゼンテーション要綱説明と準備	植村
10	多職種連携授業への参加のための準備 「作業療法について」プレゼンテーション準備	植村
11	多職種連携授業への参加のための準備 「作業療法について」プレゼンテーション準備	植村
12	多職種連携授業への参加(NS,PT,OT,ST共同グループでの職種説明と相互理解)	植村
13	OSCE課題コミュニケーション技法 説明と練習	植村
14	OSCE課題コミュニケーション技法 練習	植村
15	OSCE課題コミュニケーション技法 確認テストとフィードバック	植村
16	筆記試験	植村

【授業外学修】 予めテキストを読んでおく OSCE動画を視聴しておく

【教科書名】 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編:リハベシクコミュニケーション論・多職種連携論. 医歯薬出版, 2021.
才藤栄一 監:PT・OTのための臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編

【参考図書】 諏 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院
柳澤厚生 編著:ナースのためのコーディング活用術. 医学書院, 2004.

【評価基準】 OSCE課題「コミュニケーション技法」実技試験 3割 多職種連携授業での班活動とプレゼン内容と状況の評価 5割 筆記試験2割 合計10割とする

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 主にパワーポイント、問題集を用いて講義をする。問題集を使用する際には、あてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 構造と機能を理解し、臨床にも応用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	循環器系①	赤坂
2	循環器系②	赤坂
3	循環器系③	赤坂
4	循環器系④	赤坂
5	循環器系⑤	赤坂
6	呼吸器系①	赤坂
7	呼吸器系②	赤坂
8	呼吸器系③	赤坂
9	呼吸器系④	赤坂
10	消化器系①	赤坂
11	消化器系②	赤坂
12	消化器系③	赤坂
13	消化器系④	赤坂
14	消化器系⑤	赤坂
15	消化器系⑥	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学」(羊土社)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験80% 授業態度20%

「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【授業概要】 主にパワーポイント、問題集を用いて講義をする。問題集を使用する際には、あてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 構造と機能を理解し、臨床にも応用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	内分①「つくる・あそぶ治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版」(医歯薬出版株式会社)	赤坂
2	内分泌系②	赤坂
3	内分泌系③	赤坂
4	泌尿器系①	赤坂
5	泌尿器系②	赤坂
6	生殖器系	赤坂
7	神経系①	赤坂
8	神経系②	赤坂
9	神経系③	赤坂
10	神経系④	赤坂
11	神経系⑤	赤坂
12	神経系⑥	赤坂
13	神経系⑦	赤坂
14	感覚器系①	赤坂
15	感覚器系②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学」(羊土社)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験80% 授業態度20%

【授業概要】

運動の遂行に必要な骨や関節、筋、神経の構造と機能、運動力学に関する基礎を学ぶ。そこから、運動を行う身体構造の理解と運動の力学的な理解に役立てる。

【到達目標】

骨・関節・筋の基本的な構造と機能を理解し、構造や動きなどがイメージできるようになる。

筋紡錘など感覚受容器について学び、中枢神経機構について理解し、説明できる。

生体力学（てこやモーメントなど）について学び、メカニズムを説明できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	骨の機能と分類	池田
2	骨の基本構造	池田
3	骨の発生と再構築、骨の連結、関節の構造	池田
4	関節の形による分類	池田
5	骨格筋の構造	池田
6	筋収縮の機序、フィラメント滑走説	池田
7	骨格筋の神経（感覚受容器）	池田
8	骨格筋の神経（運動神経線維、感覚神経線維）	池田
9	運動の中枢神経機構（反射運動）	池田
10	運動の中枢神経機構（脊髄反射）	池田
11	運動制御、運動学習 ①	池田
12	運動制御、運動学習 ②	池田
13	生体力学 ①	池田
14	生体力学 ②	池田
15	まとめ	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】 「筋骨格系のキネシオロジー」（医歯薬出版）「プロメテウス解剖学アトラス」（医学書院）「基礎運動学 第7版」（医歯薬出版）

【評価基準】 定期試験80%・小テスト20%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

人体の姿勢や姿勢制御について理解し、姿勢分析や動作分析をグループ学習や演習、実際の症例を通して学ぶ。歩行の概要やメカニズムを理解し分析方法を学ぶ。

【到達目標】

人体の姿勢や姿勢制御を理解し、分析方法を習得する。

基本動作(寝返り・起き上がり・起立着座)を理解し、メカニズムを説明できる。

歩行について理解し、メカニズムを説明できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	姿勢(姿勢制御・重心・立位の安定性)	池田
2	重心線、姿勢観察演習演習	池田
3	寝返り動作の概要と症例の動作観察	池田
4	起き上がり動作の概要と症例の動作観察	池田
5	起立着座動作の概要と症例の動作観察	池田
6	姿勢、基本動作のまとめ	池田
7	歩行の概要①	池田
8	歩行の概要②	池田
9	歩行周期と各相の特徴と役割①	池田
10	歩行周期と各相の特徴と役割②	池田
11	歩行中の関節運動	池田
12	歩行の運動学的分析(重心軌跡と骨盤の動き)	池田
13	歩行の運動力学的分析(床反力、関節モーメント)	池田
14	歩行の運動学力的分析(筋活動)	池田
15	小児・高齢者の歩行、走行、異常歩行	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版)「観察による歩行分析」(医学書院)「基礎運動学 第7版」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験80%・小テスト20%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

解剖学的用語を知り、骨格系、関節と靭帯、神経系の機能と構造を骨模型や体表から触れることで学ぶ

【到達目標】

解剖学用語を理解し、用語を使って身体部位や関節運動を表現できる

骨格の全体像を把握し、個々の骨の名称や特徴的構造を知り、骨の連結の構造と機能を理解する

神経系の基本的な構造を知り、伝導路や脊髄神経の走行を理解する

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	解剖学用語（身体部位の名称、身体の面・軸、関節運動など）①	池田
2	解剖学用語（身体部位の名称、身体の面・軸、関節運動など）②	池田
3	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）①	池田
4	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）②	池田
5	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）の連結①	池田
6	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）の連結②	池田
7	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）の口頭試問①	池田
8	体軸性骨格（頭蓋・脊柱・胸郭）の口頭試問②	池田
9	付属性骨格（上肢骨）①	池田
10	付属性骨格（上肢骨）②	池田
11	付属性骨格（上肢骨）③	池田
12	付属性骨格（上肢骨）の連結①	池田
13	付属性骨格（上肢骨）の連結②	池田
14	付属性骨格（上肢骨）の連結③	池田
15	付属性骨格（上肢骨）の口頭試問①	池田
16	付属性骨格（上肢骨）の口頭試問②	池田
17	付属性骨格（下肢骨）①	池田
18	付属性骨格（下肢骨）②	池田
19	付属性「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院	池田
20	付属性骨格（下肢骨）の連結①	池田
21	付属性骨格（下肢骨）の連結②	池田
22	付属性骨格（下肢骨）の連結③	池田
23	付属性骨格（下肢骨）の口頭試問①	池田
24	付属性骨格（下肢骨）の口頭試問②	池田
25	神経系（脳、脊髄神経、運動・感覚伝導路）①	池田
26	神経系（脳、脊髄神経、運動・感覚伝導路）②	池田
27	神経系（上肢の神経 腕神経叢の枝と支配筋）①	池田
28	神経系（上肢の神経 腕神経叢の枝と支配筋）②	池田
29	神経系（下肢の神経、腰神経叢・仙骨神経叢の枝と支配筋）①	池田
30	神経系「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院）	池田
31	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」（廣川書店）「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系第3版」（医学書院）

【参考図書】 「PT・OTのための運動学テキスト 第1版補訂2版」（金原書店）「基礎運動学 第7版」（医歯薬出版）

【評価基準】 定期試験50% 小テスト20% 口頭試問30%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上

【授業概要】

体表から骨指標や表層にある筋に触れ、筋の起始と停止、支配神経、運動を学ぶ

【到達目標】

骨格筋の起始停止・支配神経・運動を説明でき、表層の骨格筋を体表からマーキングできる
自分自身の体で骨格筋の走行と動きをイメージし、表現できる

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	肩甲骨の運動に関与する筋	池田
2	肩関節の運動に関与する筋	池田
3	三角筋、上腕三頭筋の触察	池田
4	上腕筋、上腕二頭筋の触察	池田
5	腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋の触察	池田
6	指伸筋、尺側手根伸筋、肘筋の触察	池田
7	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋の触察	池田
8	尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察	池田
9	手関節の運動に関与する筋	池田
10	手指の運動に関与する筋	池田
11	上肢筋の起始・停止・支配神経・運動①	池田
12	上肢筋の起始・停止・支配神経・運動②	池田
13	上肢筋の触察振り返り①	池田
14	上肢筋の触察振り返り②	池田
15	骨指標の触察（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）①	池田
16	骨指標の触察（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）②	池田
17	大腿筋膜張筋、縫工筋の触察	池田
18	大腿四頭筋の触察	池田
19	半腱肌 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院	池田
20	薄筋、大内転筋、長内転筋の触察	池田
21	前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋の触察	池田
22	長腓骨筋、短腓骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触察	池田
23	下肢筋の起始・停止・支配神経・運動①	池田
24	下肢筋の起始・停止・支配神経・運動②	池田
25	下肢筋の触察振り返り①	池田
26	下肢筋の触察振り返り②	池田
27	顔面、頸部、体幹、呼吸に関する筋の運動①	池田
28	顔面、頸部、体幹、呼吸に関する筋の運動②	池田
29	実技試験①	池田
30	実 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院)	池田
31	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」(廣川書店)

【参考図書】 「PT・OTのための運動学テキスト 第1版補訂2版」(金原書店)「基礎運動学 第7版」(医歯薬出版)

【評価基準】 小テスト80% 実技試験20%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上

【授業概要】 からだの各器官がそれぞれどのような働きをし、どのように連携してからだの恒常性を維持しているかを理解する。

【到達目標】 からだの各器官、組織、細胞の働きを学び、さまざまな疾患の病態、症状を理解するための基礎的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	生命現象と人体（エネルギー生産）	横山
2	生命現象と人体（水と浸透圧）	横山
3	細胞の構造と機能（細胞の構造）	横山
4	細胞の構造と機能（活動電位）	横山
5	神経の興奮伝導	横山
6	末梢神経	横山
7	シナプス	横山
8	中枢神経（脊髄）	横山
9	中枢神経（脳）	横山
10	中枢神経（脳幹）	横山
11	中枢神経（大脳皮質-新皮質-）	横山
12	中枢神経（大脳皮質-辺縁系-）	横山
13	中枢神経（小脳）	横山
14	中枢神経（間脳）	横山
15	中枢神経（脳脊髄液）	横山
16	中枢神経（脳の高次機能①）	横山
17	中枢神経（脳の高次機能②）	横山
18	筋と骨（骨格筋、心筋）	横山
19	筋と骨（平滑筋、骨）	横山
20	感覚（体性感覚）	横山
21	感覚（特殊感覚）	横山
22	血液（組成、血球、血漿）	横山
23	血液（「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院）	横山
24	心臓と循環（心筋、刺激伝導系）	横山
25	心臓と循環（心電図）	横山
26	心臓と循環（血圧、心周期）	横山
27	心臓と循環（血圧の調節）	横山
28	心臓と循環（微小循環、静脈還流）	横山
29	心臓と循環（微小循環）	横山
30	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院）

「PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート」（医歯薬出版）

【参考図書】 「Crosslink basicリハビリテーションテキスト 生理学」（メジカルビュー社）

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 からだの各器官がそれぞれどのような働きをし、どのように連携してからだの恒常性を維持しているかを理解する。

【到達目標】 からだの各器官、組織、細胞の働きを学び、さまざまな疾患の病態、症状を理解するための基礎的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	呼吸とガスの運搬(気道)	横山
2	呼吸とガスの運搬(呼気運動)	横山
3	呼吸とガスの運搬(肺気量)	横山
4	呼吸とガスの運搬(ガス運搬)	横山
5	呼吸とガスの運搬(呼気の調節)	横山
6	呼吸とガスの運搬(病的呼吸)	横山
7	尿の生成と排泄(尿の生成)	横山
8	尿の生成と排泄(ネフロン)	横山
9	尿の生成と排泄(クリアランス)	横山
10	尿の生成と排泄(排尿)	横山
11	酸塩基平衡(pH調節)	横山
12	酸塩基平衡(アシドーシスとアルカローシス)	横山
13	消化と吸収(消化の仕組み①)	横山
14	消化と吸収(消化の仕組み②)	横山
15	消化と吸収(栄養素の吸収)	横山
16	消化と吸収(大腸)	横山
17	消化と吸収(肝臓)	横山
18	内分泌(ホルモンの種類)	横山
19	内分泌(各ホルモンの作用①)	横山
20	内分泌(各ホルモンの作用②)	横山
21	内分泌(各ホルモンの作用③)	横山
22	代謝と体温(エネルギー代謝)	横山
23	代謝と「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院	横山
24	生殖と発生(生殖機能)	横山
25	生殖と発生(受精)	横山
26	生殖と発生(妊娠)	横山
27	生殖と発生(分娩)	横山
28	運動生理(運動に伴う変化)	横山
29	運動生理(老化)	横山
30	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院)

「PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート」(医歯薬出版)

【参考図書】 「Crosslink basic」リハビリテーションテキスト 生理学」(メジカルビュー社)

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 臨床心理学の視点から基本的な人の心の理解と支援の在り方について紹介する。また国家試験対策として、臨床心理学に関する演習問題に取り組む。

【到達目標】 臨床心理学の知見を概観しながら、人の心を科学的に理解する視点を持てるようになることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション	金子
2	臨床心理学とは	金子
3	臨床心理学的アセスメント① 発達および知能検査	金子
4	臨床心理学的アセスメント② 質問紙法	金子
5	臨床心理学的アセスメント③ 投影法	金子
6	臨床心理面接技法① 精神分析療法	金子
7	臨床心理面接技法② クライアント中心療法	金子
8	臨床心理面接技法③ 行動療法・認知療法・認知行動療法	金子
9	その他の心理療法	金子
10	発達に関する障害の理解と支援	金子
11	うつとの理解と支援	金子
12	身体の不調に関する心理的問題の理解と支援	金子
13	パーソナリティ障害の理解と支援	金子
14	リハビリテーション現場での心理的支援の実際	金子
15	まとめ	金子
16	定期試験	金子

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「リハベーシック心理学・臨床心理学」(医歯薬出版)および配布資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90%

授業態度10%：①忘れ物(教科書・配付資料など)なく授業へ参加 ②私語や居眠りなどなく授業に参加

【授業概要】 医療に従事するにあたり必要な病理学概論について解説する。

【到達目標】 日本人の死因として重要な病気、罹患率の高い病気、病気のメカニズムについて知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	イントロダクション	濱田
2	病理学の領域	濱田
3	細胞・組織とその障害①	濱田
4	細胞・組織とその障害②	濱田
5	再生と修復	濱田
6	循環障害	濱田
7	炎症	濱田
8	免疫とアレルギー	濱田
9	感染症	濱田
10	代謝異常	濱田
11	老化と老年学	濱田
12	新生児の病理	濱田
13	先天異常	濱田
14	腫瘍	濱田
15	生命の危機	濱田
16	定期試験	濱田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「カラーで学べる病理学」（ヌーベルヒロカワ）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 内科学Ⅰ

授業形態：講義

担当教員： 赤坂恵理

通年 4単位

【授業概要】 各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	内科学とは	赤坂
2	内科的診断と治療の実践	赤坂
3	症候学	赤坂
4	循環器疾患①	赤坂
5	循環器疾患②	赤坂
6	循環器疾患③	赤坂
7	呼吸器疾患①	赤坂
8	呼吸器疾患②	赤坂
9	消化器疾患①	赤坂
10	消化器疾患②	赤坂
11	肝胆膵疾患①	赤坂
12	肝胆膵疾患②	赤坂
13	肝胆膵疾患③	赤坂
14	血液・造血器疾患①	赤坂
15	血液・造血器疾患②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 内科学」(医学書院)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定：「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

科目名： 内科学Ⅱ

授業形態：講義

担当教員： 赤坂恵理

【授業概要】 各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】 各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院)

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	代謝性疾患①	赤坂
2	代謝性疾患②	赤坂
3	代謝性疾患③	赤坂
4	内分泌疾患①	赤坂
5	内分泌疾患②	赤坂
6	腎・泌尿器疾患①	赤坂
7	腎・泌尿器疾患②	赤坂
8	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症①	赤坂
9	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症②	赤坂
10	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症③	赤坂
11	感染症①	赤坂
12	感染症②	赤坂
13	リハビリテーションに必要な栄養学①	赤坂
14	リハビリテーションに必要な栄養学②	赤坂
15	救急救命の知識	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 内科学」(医学書院)

【参考図書】 「PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%

科目名： 神経内科学 I

授業形態：講義

担当教員： 横山幸三

通年 4単位

【授業概要】 リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病因、病態がもたらす機能障害や能力障害と、それらに対する治療法を理解する。

【到達目標】 リハビリテーションカンファレンスで他の職種と情報交換を行う際に求められる神経疾患に対する医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	神経症候（高次脳機能障害、失語）	横山
2	神経症候（失認症、失行）	横山
3	神経症候（認知症）	横山
4	神経症候（運動失調）	横山
5	神経症候（意識障害）	横山
6	神経症候（嚥下障害、構音障害）	横山
7	神経症候（錐体路徴候）	横山
8	神経症候（錐体外路徴候）	横山
9	神経症候（感覚障害）	横山
10	神経症候（脳圧亢進・脳ヘルニア）	横山
11	神経症候（神経因性排尿障害）	横山
12	神経症候（末梢神経徴候）	横山
13	脳血管障害（分類）	横山
14	脳血管障害（症状、治療法）	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」（医歯薬出版社） 「病気がみえる Vol.7 脳・神経」（メディックメディア）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 精神医学(前期)

授業形態：講義

担当教員：

園屋 和之
通年 2単位

【授業概要】

精神医学の概念・歴史を学ぶ。
精神機能の障害と精神症状について学ぶ。
精神疾患(脳器質性精神障害, 統合失調症, アルコール関連, 薬物関連等)についての特性・症状を学ぶ。

【到達目標】

精神医学の概念・歴史を理解し修得する。
基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	精神医学概念・精神医学の歴史, 精神障害の成因と分類	園屋
2	精神機能の障害と精神状態①	園屋
3	精神機能の障害と精神状態②	園屋
4	精神機能の障害と精神状態③, 精神障害の診断と評価	園屋
5	脳器質性精神障害①	園屋
6	脳器質性精神障害②	園屋
7	統合失調症①	園屋
8	統合失調症②	園屋
9	統合失調症③	園屋
10	統合失調症④	園屋
11	アルコール関連①	園屋
12	アルコール関連②	園屋
13	薬物関連①	園屋
14	薬物関連②	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】

「現代臨床精神医学」(金原出版)

【評価基準】

定期試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】

作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

科目名： 精神医学(後期)

授業形態：講義

担当教員：

園屋 和之

【授業概要】

精神疾患(気分障害, 神経症性障害, 生理的障害, パーソナリティ障害, てんかん等)についての特性・症状を学ぶ。
精神障害の治療並びに精神科保健医療等について学ぶ。

【到達目標】

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院)
基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。
精神障害の治療, 精神科保健医療, メンタルヘルスを理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	気分障害①	園屋
2	気分障害②	園屋
3	気分障害③	園屋
4	気分障害④	園屋
5	神経症性障害①	園屋
6	神経症性障害②	園屋
7	神経症性障害③	園屋
8	神経症性障害④	園屋
9	生理的障害および身体要因に関連した障害①	園屋
10	生理的障害および身体要因に関連した障害②	園屋
11	パーソナリティ障害・てんかん	園屋
12	ライフサイクルにおける精神医学, コンサルテーション・リエゾン精神医学	園屋
13	精神障害の治療とリハビリテーション	園屋
14	精神科保健医療とメンタルヘルス	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版」(医学書院)

【参考図書】

「現代臨床精神医学」(金原出版)

【評価基準】

定期試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】

作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

科目名： 医学概論(後期)

授業形態：講義

担当教員： 横山幸三

2単位

【授業概要】 医療に携わることをめざす時に、医療の歴史、医療観の変遷を知り、現代医療の現状と問題点を明らかにして、日本のめざす医療システムを理解する。

【到達目標】 健康や障害の概念、いのちの尊厳を学び、外来診療のシステムに対する基本的知識の習得に努める。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	いのちと健康	横山
2	医療的ケアと管理	横山
3	現代医学の起源,医療観の移り変わり	横山
4	救急救命と蘇生術	横山
5	外来診療のプロセス	横山
6	障害者のノーマライゼーション	横山
7	現代医療の最前線	横山
8	医原病という考え方	横山
9	インフォームド・コンセント	横山
10	臨床疫学	横山
11	プライマリーケアの新たな展開	横山
12	在宅医療	横山
13	情報化社会と医療	横山
14	地域包括医療システム	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「系統看護学講座 別巻 総合医療論」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

作業の体験を通して、人間の行動や作業の成り立ちを学び、個人や集団における作業の意味を知る。
 作業が人間の身体に与える影響を運動学や神経生理学の視点から学ぶ。
 作業が精神的な健康に与える影響について学ぶ。

【到達目標】

作業療法の基本概念と理論的背景を理解し、作業を治療的に適用する基礎的な知識と技能を修得する。
 作業を分析し、効果的な作業療法の計画を立案できるようになるために、分析手法の基本を理解して適用できる。
 作業療法における作業活動の身体・精神認知的側面を理解し適切に活用するために、作業の特徴と対象者への影響を説明し実践できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	作業療法の成り立ち	園屋
2	作業療法理論とその役割	園屋
3	作業の分析／基礎作業の体験	園屋
4	作業の分析／基礎作業の体験	園屋
5	作業の分析／基礎作業の体験	園屋
6	陶芸の運動学	園屋
7	陶芸の精神・心理学	園屋
8	革細工の運動学	園屋
9	革細工の心理学	園屋
10	マクラメの運動神経生理学	園屋
11	レクリエーションの心理作用	園屋
12	作業と運動	園屋
13	作業と神経生理	園屋
14	作業と行動心理	園屋
15	コミュニケーションスキル／総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】 「つくる・あそぶ治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版」（医歯薬出版株式会社）

【評価基準】 定期試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 作業活動の特性を知り、治療手段として用いるための基本知識・見解を知る。
作業活動の工程を知り、作業活動に用いられる主な技法を知る。
製作を通じて作業活動の作業分析、活動分析を知る。

【到達目標】 作業活動を作業療法の治療手段として活用する目的を理解する。
作業活動の治療的意味ならびに要素を理解し適切に伝えることができる。
製作を通じて作業活動の作業分析、活動分析ができる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	作業とは／作業療法における作業の応用／作業を治療的に使うためには／作業活動実習を行う重要性	園屋
2	作業とは／作業療法における作業の応用／作業を治療的に使うためには／作業活動実習を行う重要性	園屋
3	対象者と作業活動の適合／作業活動の試行と活動分析／材料・道具・場所・進め方の準備／説明と同意	園屋
4	材料の選択／作業手順の説明と指導法／作業活動中の対応（時間的制約への対応、作業活動終了時の対応）	園屋
5	作業遂行過程における評価（活動分析／作業分析／編成分析）	園屋
6	作業遂行過程における評価（活動分析／作業分析／編成分析）	園屋
7	作業療法における個人作業と集団作業の特徴と効果	園屋
8	作業療法における個人作業と集団作業の特徴と効果	園屋
9	基本的作業活動種目① 紙細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
10	基本的作業活動種目① 紙細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
11	基本的作業活動種目① 紙細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
12	基本的作業活動種目① 紙細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
13	基本的作業活動種目② テレビゲーム、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
14	基本的作業活動種目② テレビゲーム、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
15	基本的作業活動種目② テレビゲーム、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
16	基本的作業活動種目② テレビゲーム、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
17	基本的作業活動種目③ 革細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
18	基本的作業活動種目③ 革細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
19	基本的作業活動種目③ 革細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
20	基本的作業活動種目③ 革細工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
21	基本的作業活動種目④ 陶芸製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
22	基本的作業活動種目④ 陶芸製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
23	基本的作業活動種目④ 陶芸製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
24	基本的作業活動種目④ 陶芸製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
25	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
26	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
27	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
28	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
29	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
30	基本的作業活動種目⑤ 木工製作、ワークシートを用いた作業分析／活動分析	園屋
31	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「つくる・あそぶ治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版」（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」（医学書院）

【評価基準】 定期試験50％ レポート50％（基本的作業活動種目①～⑤の作業分析／活動分析シート作成）

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】
リハビリテーション並びに作業療法の概要，歴史や現状，作業療法士に求められる資質や適性を学ぶ。
レポートの作成技術，プレゼンテーション技術を学ぶ。
グループワークを通し，医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を学ぶ。

【到達目標】
リハビリテーション並びに作業療法の概要，歴史や現状並びに作業療法士に求められる資質や適性を理解する。
レポートの作成技術，プレゼンテーション技術を習得する。
グループワークを通し，医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を習得する。

【授業の進め方】	
回数	授 業 内 容
1	作業療法を学ぶ前に/「作業」とは/「作業療法」とは
2	作業療法の歴史/日本と世界の作業療法
3	作業療法の対象と領域/作業療法の理論と技術
4	作業療法の教育/関連法規と職能団体
5	作業療法の研究とエビデンス/レポート・スライド作成方法，参考文献と引用の記載
6	作業療法の対象と専門領域（講義，レポート，スライド作成）
7	作業療法の対象と専門領域（レポート，スライド作成）
8	作業療法の対象と専門領域（レポート，スライド作成）
9	作業療法の対象と専門領域（レポート，スライド作成）
10	作業療法の対象と専門領域（発表）
11	作業療法に求められる資質と倫理（講義，レポート，スライド作成）
12	作業療法に求められる資質と倫理（レポート，スライド作成）
13	作業療法に求められる資質と倫理（レポート，スライド作成）
14	作業療法に求められる資質と倫理（レポート，スライド作成）
15	作業療法に求められる資質と倫理（発表）

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】

【評価基準】 レポート，課題への取り組み姿勢（責任感，協調性など），発表 100%

【実務経験】 作業療法士，病院における臨床5年以上

【授業概要】

作業療法の実際、臨床的思考過程並びに作業療法における管理運営、社会保障制度について学ぶ。
 レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を学ぶ。
 グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を学ぶ。

【到達目標】

作業療法の実際、臨床的思考過程並びに作業療法における管理運営、社会保障制度について理解する。
 レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を習得する。
 グループワークを通し、医療人としての責任感並びにチームアプローチにおける協調性を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	作業療法の実践過程(作業療法の仕組みについて/評価内容と過程について)	伊集院
2	作業療法の実践過程(目標や治療について)	伊集院
3	作業療法の実践過程(思考の過程と態度について)	伊集院
4	身体障害領域の作業療法①	伊集院
5	身体障害領域の作業療法②	伊集院
6	精神障害領域の作業療法①	伊集院
7	精神障害領域の作業療法②	伊集院
8	発達系障害領域の作業療法①	伊集院
9	発達系障害領域の作業療法②	伊集院
10	老年期障害領域の作業療法①	伊集院
11	老年期障害領域の作業療法②	伊集院
12	身体・精神・発達・老年期領域の作業療法(スライド作成)	伊集院
13	身体・精神・発達・老年期領域の作業療法(発表)	伊集院
14	作業療法の実際(講義・現役3年生からの聞き取り)	伊集院
15	作業療法のまとめ	伊集院

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版」医学書院

【参考図書】

【評価基準】

レポート40%、発表10%、単元テスト50%

【実務経験】

作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 見学実習（後期） 授業形態： 実習 担当教員： 植村健一・池田真一・橋口信洋・園屋和之・伊集院由紀

1単位

【授業概要】 臨床場面において、作業療法士の業務内容（評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等）および他スタッフとの関わり方、対象者との信頼関係の構築等を見学・体験する。作業療法対象疾患を臨床場面で学ぶ。

【到達目標】 作業療法士の業務内容（評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等）を説明することができる。社会人として相応しいコミュニケーションをとることができるようになる。

【授業の進め方】

授 業 内 容
実習施設において5日間の見学実習を行う 1) 実習目的 作業療法評価、プログラム立案、治療、報告、記録の一連の業務を見学・体験する。 対象者との接し方、他スタッフとの関わり方を見学・体験する
2) 指導担当者 臨床実習指導者・担当教員

【授業外学修】 予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】 実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 :計100点

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加